

令和2年度土木学会技術賞（Iグループ）受賞

業績名：令和元年台風第19号における草木ダムの洪水調節

「土木学会技術賞（Iグループ）」は、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる個別技術が表彰される制度です。

令和元年10月、東日本に上陸した台風第19号の襲来により、各地で河川の氾濫や土砂災害が発生しました。

このとき、水資源機構が管理する草木ダムでは、これまで蓄積した異常洪水に対する経験と、高度な流出予測システムを活用し、関係機関・利水者のご指導・ご理解を頂いたうえで、過去に例のない規模の事前放流を行い、渡良瀬川沿川の洪水被害を防ぎました。

激甚化する水害に対して治水対策の緊要性が求められる中、水資源機構が継続して取り組んできたダム操作に関する技術向上と日頃の訓練の成果が高く評価されたものと考えています。

これを励みに、これからも住民の方々や関係機関とともに水災害への備えと防災意識の向上に努めて参ります。



ダム操作シミュレータによる操作技術の向上の取組

予備放流・事前放流により約17.5m低下
(予備放流・事前放流完了後)



約 2,184万m³を貯留
(洪水調節後)

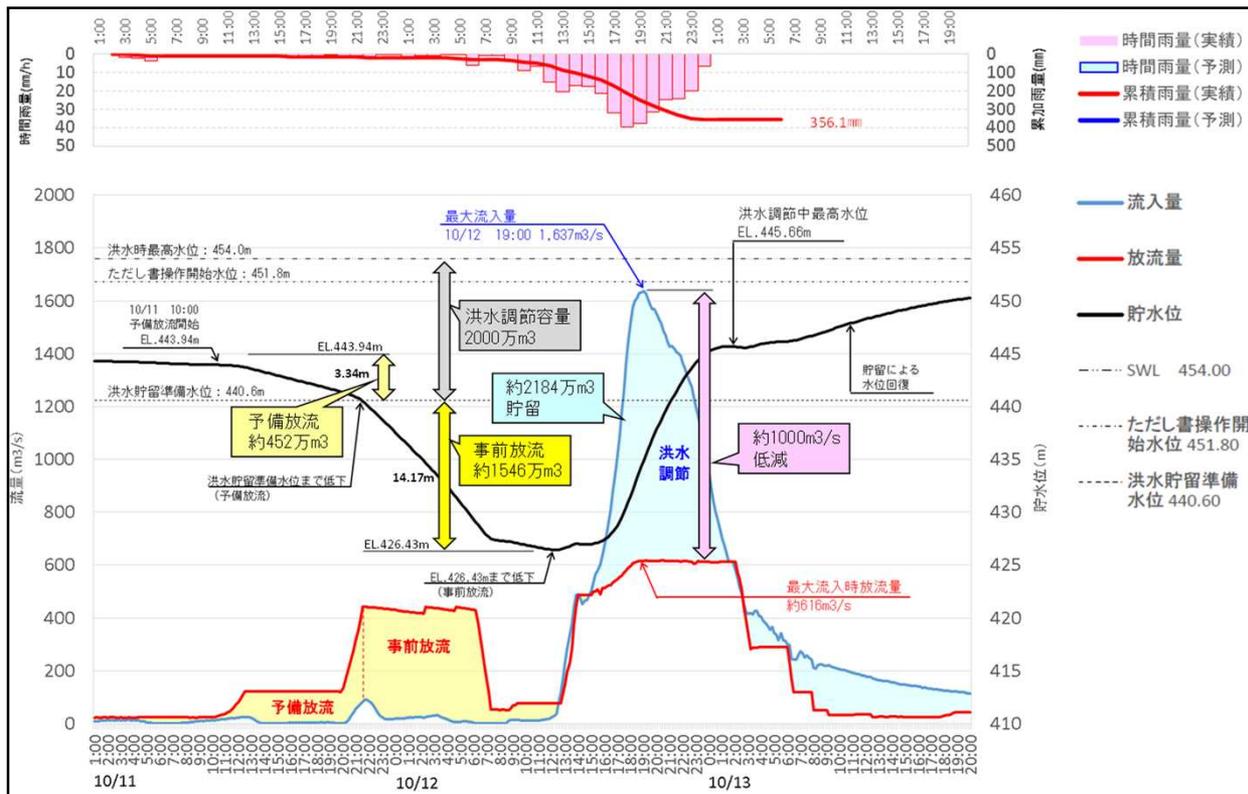


ダムの状況

令和元年10月 台風第19号における草木ダムの洪水調節効果

- 草木ダムでは、台風第19号に備え、計画の洪水調節容量20,000千m³を確保するため10月11日10時00分より予備放流を実施。
- 予備放流のみでは異常洪水時防災操作を回避できないことが予測されたため、関東地方整備局の指示を頂き、引き続き10月11日21時30分より事前放流に移行。洪水調節に活用可能な容量をさらに約15,000千m³を確保。
- 洪水調節により計画洪水調節容量2,000万m³を超える約2,184万m³をダムに貯留。所定の洪水調節効果を発揮しつつ事前放流により異常洪水時防災操作を回避。
- この防災操作により、ダム下流約20kmの高津戸地点（みどり市）の水位低減効果は約2.6mと推定。渡良瀬川沿川の洪水被害防止に貢献。

草木ダムにおける防災操作の状況（令和元年台風第19号）



下流河川の水位低減効果

